

## 元川・中川河口付近の干潟

(バスから降車して説明：元川・中川河口付近の干潟付近)

**浅見委員** 今は、潮が引いているみたいで、かなり干潟が干上がって見えています。向こうに見えるのはヨシ原のように見えて、あれはおそらくアイアシ群落ができていると思います。アイアシというのはヨシそっくりなんですけど、やはり汽水域のところに生える植物です。それからそこに茶色っぽい枯れたような草があって、なんか藻のようなものがついている。あそこはフクド群落とか、あるいはハママツナ群落といいましてすごく珍しい群落で、ここ以外ではめったに見ることができません。枯草のように見えますが、すごく貴重なものを見ているんだという思いで帰っていただければと思います。

向こうのほうにも水たまりがありまして、茶色いのが点々と見えている。あのあたりにもフクド、あるいはアイアシ、シオクグとあって、すごく珍しいものが出ています。この干潟のあたり、元川と中川、それからそれが合流しまして三川分派地区の近くまで干潟の状態が続いています。先ほど下りてくる時は左岸側揖保川本川を下りてきましたのですごく流量がたくさんあって、アユの産卵場などがあって、かなり流れの速い川を下りてきたなという感じなんですけど、ここは上流の三川分派のところに横堰という堰がありまして、余程の出水時以外は水が流れなくなっています。つまり河口から水がヒタヒタと上がってきてプールようになって、それで干潟が出来あがっているということになっています。こういう干潟というのは揖保川の本川の方では全然見られません。横堰があって、ここがプール状になっているから見られるということです。揖保川の中でもすごく特徴的な環境です。

兵庫県下でこういった環境がどこにあるかと言いますと、市川・千種川・佐方川というあたりや、加古川に点々とあります。中でもこの揖保川はかなり規模が大きく残っているほうです。もうちょっと広げて、近畿地方全体で見ますと、これがないんです。これは兵庫県ぐらいです。兵庫県の今言いました川と、あと日本海側には全然なくて、近畿地方ですと、三重県に大きな群落があります。ですから、近畿地方全体の中でもレッドデータブックの中でもすごく重要な場所に位置付けられています。ここは次に次に出ます改訂版兵庫県のレッドデータブックでもAランクになる予定の所です。極めて珍しいものを今日は皆さん目にして帰れるということで喜んでいただければと思います。